

【資料1】

●臨時代走適用時のJABAスコアシート記入について

日本野球連盟（社会人野球）内規より抜粋

(2024年12月12日)

4. 臨時代走

投球が打者の頭部に強く当たり走者となる時、審判員の判断により、臨時代走を適用することができる。

臨時代走者は、走者となっている者、投手を除く直前の打順の者とする。

臨時代走を適用してから5分以内に攻守交代となった場合は、その適用から5分を経過する時間を目安として観察を続ける。「社会人野球申し合わせ事項」4)

攻撃側の監督は、観察終了後、選手を交代させるか、試合に復帰させるかを判断し、審判員に通告しなければならない。なお、選手を交代させる場合は、観察時間を待たずに通告することができる。

臨時代走の役割は、アウトになるか、得点するか、またはイニングが終了するまで継続する。臨時代走者に代走を起用することはできるが、元の選手はその後試合に出場できない。

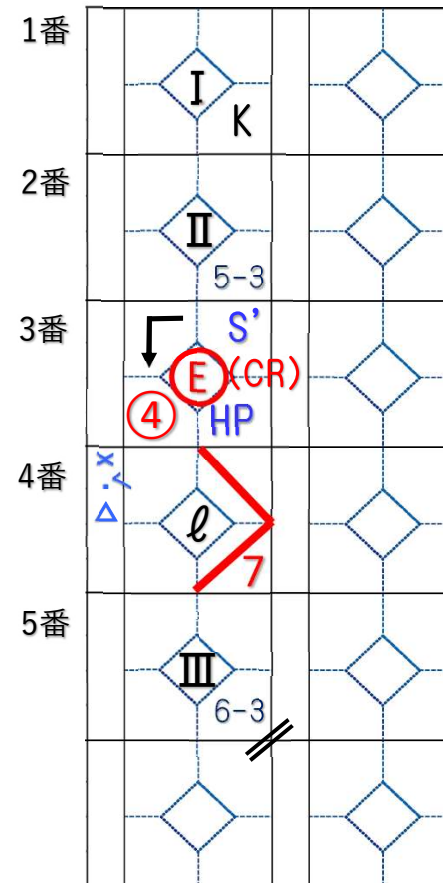
また、臨時代走者の盗塁、得点、残塁等は、実際に塁上にいる選手（臨時代走者）に記録される。

臨時代走の記録記号は、Courtesy Runner コーティシーランナー（略号=CR）とし、
《野球規則 5.10 プレーヤーの交代（e）【原注】の”コーティシーランナー”を適用》

【特記事項欄への記入例】

特記事項
臨時代走：●回表、●▲(打者名)に■▲(打者名)

【記入例】



3番打者死球、審判員の判断により臨時代走適用、直前にアウトになった2番打者が臨時代走となる。臨時代走適用後、二塁に盗塁。4番打者の二塁打により本塁に到達、得点となった。

このケースの場合、

盗塁及び得点は臨時代走者(2番打者)に記録する。

(打撃記録欄に記入すること)